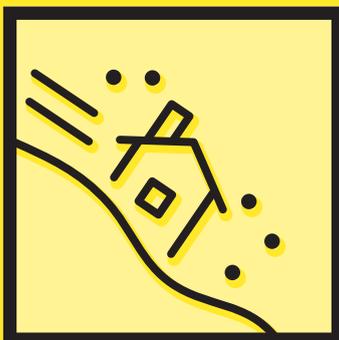


上砂川町

保存版
2022年1月

防災

ハザードマップ



●普段から目を通しておいってください。

●保管して災害時に役立ててください。

災害用伝言サービス

安否情報などを家族や知人に知らせる方法を家族で確認しておきましょう



災害用伝言ダイヤル

171

大規模な災害が発生し、安否確認等の電話によって電話回線が混雑し、電話が繋がりにくい状況でも、伝言の録音・再生により、被災地内の家族や親戚・知人等と連絡を可能にする「声の伝言板」です。



録音

171



1



□□□□□□□□□□

伝言の録音



再生

171



2



□□□□□□□□□□

伝言の再生

案内放送が流れます……

被災地の方の電話番号を市外局番から



携帯電話災害用伝言板サービス

大規模な災害が発生した場合、携帯電話各社のトップに「災害用伝言板」が追加され、自らの安否状態を登録することが可能になり、登録された伝言は、インターネットや携帯電話などから確認することができます。

※使用にあたっては、各携帯電話会社のホームページで確認しておきましょう。

※詳しい内容はNTTのホームページで確認してください。 [ホームページ](https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/) <https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>



わが家の「緊急・救急情報」防災メモ

非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたい、わが家の情報です。
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関などに情報を提供します。

家族の集合場所

集合場所	避難所・避難場所	連絡方法

家族の連絡先及び救急情報

氏名	続柄	電話番号 (自宅・携帯)	電話番号 (会社・学校)	生年月日	血液型	救急情報 (持病・アレルギー・常備薬)
					型	
					型	
					型	
					型	
					型	

親族・知人

氏名	間柄	電話番号

かかりつけ医療機関

医療機関名	電話番号

緊急ダイヤル 消防へ火事・救急・救助の連絡

119

警察へ事件・事故の連絡

110

発行 上砂川町

〒073-0292 空知郡上砂川町中央北1条5丁目1番7号

上砂川町ホームページ <https://town.kamisunagawa.hokkaido.jp/>



この事業は市町村振興宝くじ（通称:サマージャンポ宝くじ）の収益金を活用して実施しています。



はじめに

町民の皆様へ

地震や風水害、土砂災害などの自然災害は、私たち人々の力で食い止めることはできませんが、災害による被害は、日ごろの活動や備えによって減らすことができます。

このため、市町村などによる・防災・減災の取り組み(公助)はもちろんのこと、

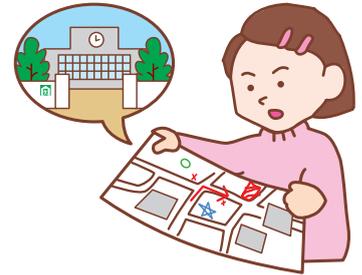
- 自分のことは自分で守る(自助)
- 地域は地域の人たちで助け合う(共助)

これらが、災害による被害を少なくするための不可欠な取り組みです。

上砂川町は、約90%が山林ととても緑豊かなまちですが、気象状況等自然の影響によって、土砂災害や浸水が起こりやすい警戒区域もあります。防災・減災のためには、この**防災ハザードマップ**を利用し、「**災害を知ること**」・「**まちを知ること**」・「**危険な場所を知ること**」が大切です。

また、防災ハザードマップには、気象情報や防災情報、各種自然災害に備えた知識や行動、避難の心得など、防災・減災の全般にわたる情報や知識、災害に備えた行動をまとめております。

万が一の災害発生時に命を守る、地域を守るための迅速な行動と知識を身に付けるため、大いに活用いただくことを望んでおります。

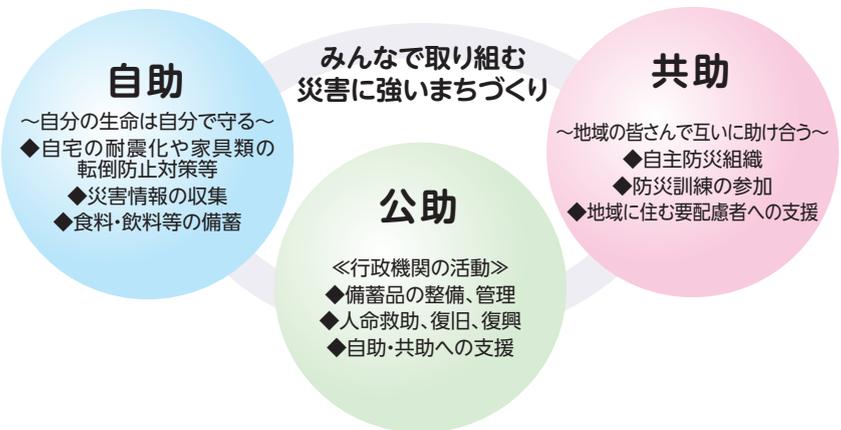


地域の防災力を高める 自助・共助・公助

地震や洪水、台風等の自然災害による被害を最小限に抑えるためには、自分の命は自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」、行政の救助・支援「公助」の取り組みが必要です。

大規模災害時では、公助の機能に限界がありますので、「自助・共助・公助」が連携することにより、住民と行政が一体となって地域防災力を高めることが重要となります。

いざという時に備え、適切な行動ができるよう日常的に防災を意識しましょう。



家族みんなで防災会議

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざというときに慌てず行動できるよう、本書を活用いただき、家族で普段から話し合っておきましょう。

<input type="checkbox"/> 家の中で一番安全な場所
<input type="checkbox"/> 家族一人ひとりの役割分担 ・安否確認、非常持出品・備蓄品のチェック、避難経路の確保、隣近所への連絡など
<input type="checkbox"/> 避難場所、避難経路 ・自宅と避難場所を確認し、マップに描き入れましょう ・避難経路を実際に歩いて確認しましょう
<input type="checkbox"/> 自宅付近の災害リスク、危険個所の確認
<input type="checkbox"/> 災害が起こった時の身の守り方
<input type="checkbox"/> 家族が離ればなれでいたときの連絡手段、集合場所
<input type="checkbox"/> 要配慮者(乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦など)のサポートと避難方法





警戒レベルを用いた避難情報

警戒レベルについて

警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けしたもので、市区町村が避難情報と合わせて出す情報です。

避難情報等 (警戒レベル)				
警戒レベル	行動を促す 防災情報	お知らせ(一例)	皆さんが取るべき行動	
町が発令	5	緊急安全確保	警戒レベル5、緊急安全確保を発令しました。命の危険から直ちに安全を確保してください。	すでに災害が発生又は切迫している状況です。命の危険がありますので、直ちに安全を確保してください。(命を守る行動)
	<警戒レベル4までに必ず避難!>			
	4	避難指示	警戒レベル4、避難指示を発令しました。危険な場所から避難(立ち退き避難又は屋内安全確保)してください。	役場の広報車がお知らせする避難所へ直ちに避難するか、屋内で安全を確保してください。(危険な場所から全員避難)
気象庁が発表	3	高齢者等避難	警戒レベル3、高齢者等避難を発令しました。危険な場所から避難を完了させるのに時間を要する在宅又は施設利用者の高齢者及び障害のある人等、及びその人の避難を支援する者は、役場の広報車がお知らせする避難所へ避難してください。その他の人は避難の準備をし、危険な場所からは自発的に避難してください。(危険な場所から高齢者等は避難)	危険な場所から避難を完了させるのに時間を要する在宅又は施設利用者の高齢者及び障害のある人等、及びその人の避難を支援する者は、役場の広報車がお知らせする避難所へ避難してください。その他の人は避難の準備をし、危険な場所からは自発的に避難してください。(危険な場所から高齢者等は避難)
	2	洪水注意報 大雨注意報		ハザードマップ等により、避難場所、避難経路を確認し、避難に備え自らの避難行動を確認してください。(避難行動の確認)
	1	早期警戒情報		最新の気象情報に注意するなど、災害への心構えを高めてください。(心構えを高める)

河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)		
	防災気象情報(警戒レベル相当情報)	
	浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報(土砂災害)
4相当	氾濫危険情報	土砂災害警戒情報
3相当	氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2相当	氾濫注意情報	—
1相当	—	—

※市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当の出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

避難指示等が発令されたら速やかに避難行動をとる必要がありますが、突発的な災害では、発令が間に合わないこともあります。避難指示等が発令されていなくても、警戒レベルに相当する気象情報を認識し、危険を感じたら早めに避難行動をとってください。大切なことは「自分で判断する」ということです。

警戒レベル5はすでに災害が発生・切迫している状況です。また、必ず発令されるものではありません。

警戒レベル3高齢者等避難や警戒レベル4避難指示では、地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。



(ページ内の図表は内閣府・気象庁ホームページより抜粋、編集)



避難の心得について

避難の心得10項目

避難の際に注意する10項目をまとめましたので、もしもの災害が起きた時、慌てずに行動できるよう確認しておきましょう。

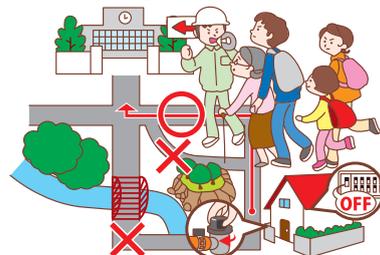
1 最新情報を入手

ラジオ・テレビから最新の気象・災害情報を入手し、危険を感じたら避難準備をしましょう。



2 呼びかけに注意

町役場、消防署、警察署からの避難の呼びかけに注意しましょう。



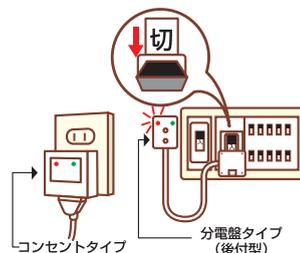
3 ガスの元栓を閉める

地震後はガス器具やガス管が壊れている場合があります。ガスが復旧した際にガス爆発の危険があるため、ガスの元栓を閉めましょう。



4 ブレーカーを落とす

停電時でも必ずブレーカーを落として避難してください。停電から復旧した際に「通電火災」の危険があります。地震に対しては、感電ブレーカーの設置を検討してみましょう。



5 連絡・メモを残す

安否情報、連絡先などのメモを残しましょう。電話の混線が想定されるので、SNSなどを利用するのも良いでしょう。



6 2人以上で避難

できるだけ1人の避難は避けましょう。また、子どもからは目を離さないようにしましょう。



7 助け合って避難を

子どもや高齢者、病気の人などは避難に時間がかかるので、早めに避難させましょう。また、近所の人の場合も積極的に協力しましょう。



8 安全な避難

浸水があった場合は、溝や水路に十分注意しましょう。また、がけ地などでは、土砂災害のおそれがあるので注意しましょう。



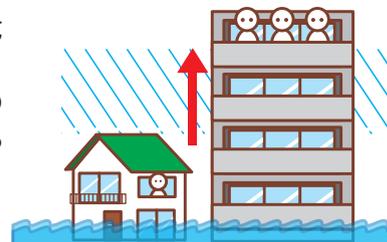
9 避難は徒歩で

車での避難は、緊急車両通行の妨げや交通渋滞を招くほか、浸水により動けなくなるおそれもあります。特別な事情がない限り、徒歩で避難しましょう。



10 避難に遅れたら…

万一、避難に遅れ危険が迫ったときには、近くの丈夫な建物のできるだけ高いところに逃げましょう。





避難方法について

避難方法

危険を感じたらすぐに自主避難



最近全国各地において頻繁に見られる局地的集中豪雨のように、突発的な異常気象の場合には、町からの避難情報が間に合わないケースもあります。その際には、身の危険を感じたら安全な場所にいる家族や知人の家、町が開設した避難所などへ自主的に避難しましょう。

命を守る最低限の方法とは

危険な状況のなかでの避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、指定された避難場所への移動(①水平避難)だけでなく、命を守る最低限の行動(②垂直避難)が必要な場合もあります。

例えば、

- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している(50センチ以上)。
- 浸水は20センチ程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10センチ程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。

②垂直避難:上記の場合、屋外への移動は危険です。浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、自宅や近隣建物の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討しましょう。

①水平避難



②垂直避難



感染症拡大を抑えるための分散避難

災害時の避難所に多人数が集まれば、密集した空間となり、感染症リスクが高まる恐れがあります。新型コロナウイルス等の感染症の対策が進められている現在において、以下を留意した「分散避難」の考えを持って、行動することが求められています。

● 避難の必要性を再確認する

あらかじめハザードマップ等で自宅周辺のリスクを把握しておきましょう。災害時には自分に避難が必要なのかを再度確認し、避難所への**不要な移動を行わない**ようにしましょう。

● 縁故避難も視野に入れましょう

避難所で密集することを避けるためには、**災害危険の無い親戚や友人、知人の家など**へ避難が可能か確認しておきましょう。

● 避難所への避難が必要であれば…

避難所で十分なスペース確保や換気が行われていても、「**避難所には感染症拡大のリスクがある**」ことを再認識して、感染防止に役立つ物品を用意し、安全に避難しましょう。**マスク、消毒液、除菌シート、体温計等**の物品は日頃から用意しておきましょう。





土砂災害について

土砂災害の種類

がけ崩れ

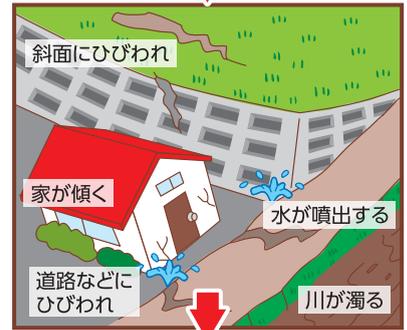
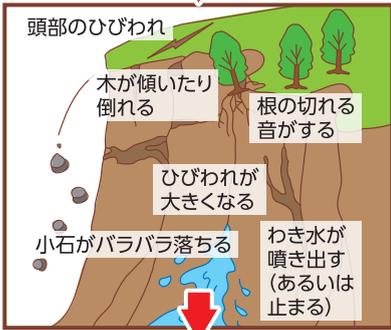
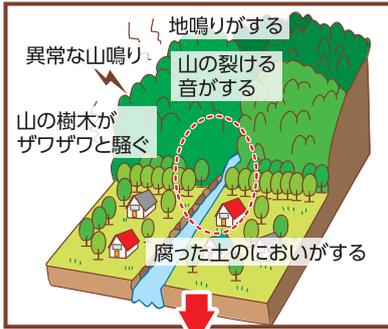
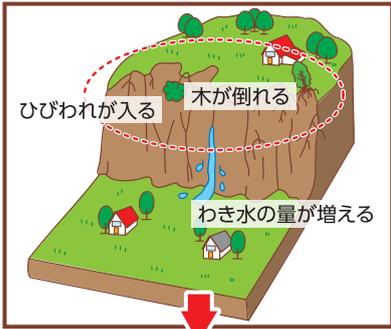
地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。

土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

逃げ方を覚えましょう

がけ崩れは一瞬で起こるため、早期避難の判断が重要です。緊急時には、**がけの高さの2倍以上の距離に逃げたり**、室内の安全な場所(がけから離れた部屋や2階など)に避難しましょう。

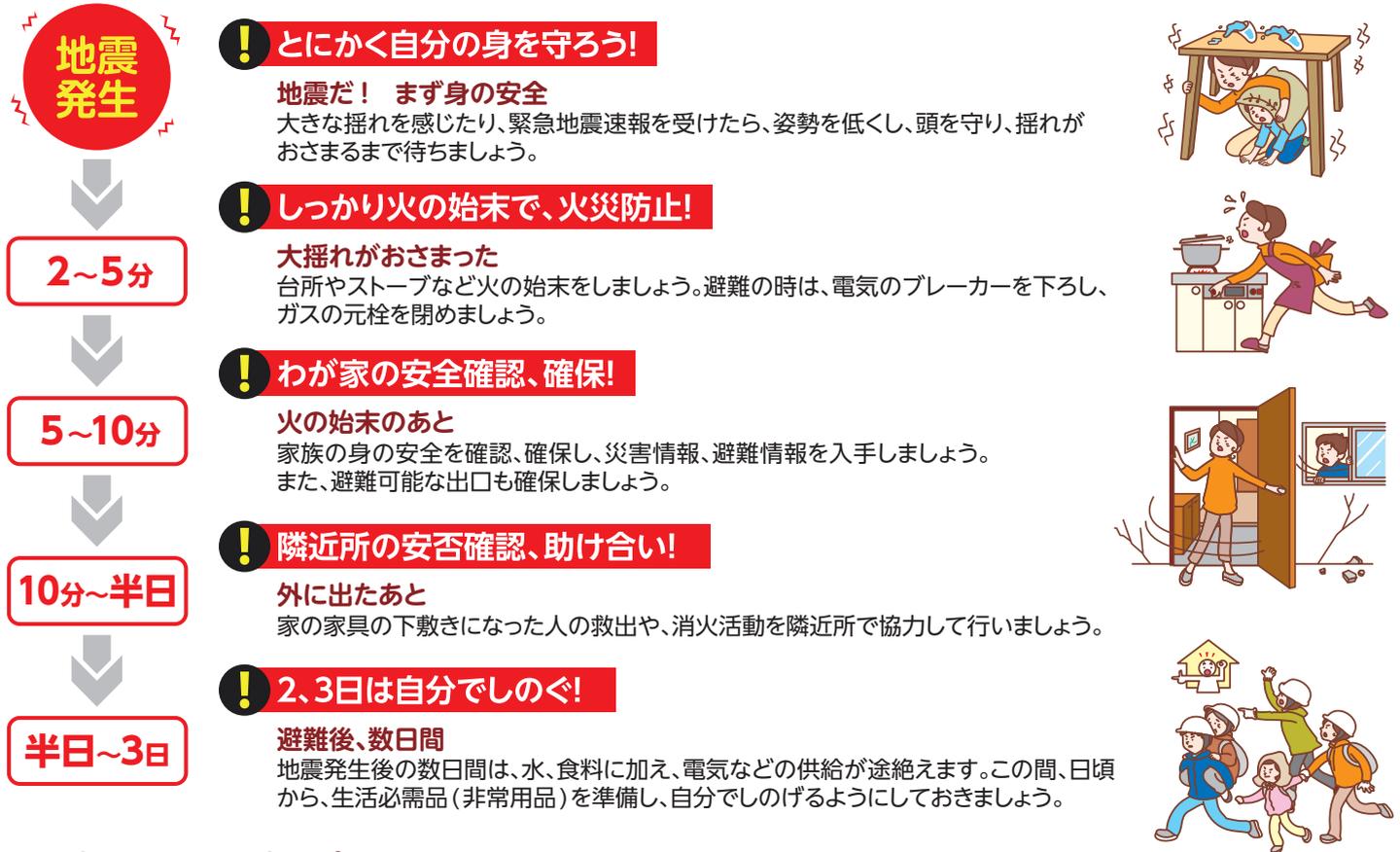
土石流は速度が速いため、流れを背にしていたのでは追いつかれてしまいます。**土砂の流れる方向に対して直角に逃げる**ようにしましょう。





地震対策について

地震発生時の時間経過別行動マニュアル



屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。



海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。